伊藤　洋平　議員

質問	ワイン振興による地方創生について
市長	大きな可能性を秘めたものと認識している

問　昨年5月、三ツ石地区において、グランポレール北海道北斗ヴィンヤードが開設され、三ツ石地区の風土、気候がワイン用ブドウの生産に適した環境であることが注目されました。

また、文月地区でも生産能力の高い技術者がその土地の優位性に目を付け、ワイン用ブドウを生産されています。

人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、地域に潜在する資源やニーズを掘り起こし、整備し、ビジネス化していくことで、この先、地域の雇用が創出でき、持続的発展の基礎を築く足がかりとなり得ます。

また、優秀な人材を地域に根付かせることにより、地域活性化へとつなげていくことができ、地方創生にも寄与するものと思われます。

そのようなことから、次のことをお伺いします。

(1)前述のとおり、地域資本の強みを生かすことが、これからの地方創生に欠かせないものになると考えますが、市長はワイン振興をどのようにお考えかお伺いします。

(2)地域に人材を根付かせるには、受け皿としてより参入しやすくすべく、市独自の制度があれば、他の地域に参入するよりは北斗市への参入を選択することが多くなると考えますが、市長はどのような取り組みにより参入者を支援していくのかお伺いします。

答（市長）(1)近年、全国的に北海道ワインが注目されており、ここ道南は、道内でも温暖で積雪が少ないなど、ブドウ栽培の条件に恵まれていることから、本市においても醸造用ブドウの栽培が拡大しているところです。

現在、市内三ツ石地区、文月地区において、3法人が12・2haのブドウ栽培を行っており、令和6年度には32・3haへ拡大する計画となっています。このように、北海道ワインへの評価の高まりを受け、本市においても新たに醸造用ブドウの栽培が拡大していくことは、農業振興のみならず、6次産業化による地域全体の産業振興や地方創生につながる大きな可能性を秘めたものと認識しています。

(2)渡島管内における醸造用ブドウの栽培拡大の動きを踏まえ、平成31年2月に、醸造用ブドウ栽培の振興及び発展並びに品質向上によるブドウ産地としての競争力強化を目的として、本市のほか、函館市、七飯町及び生産者などで構成される「みなみおしま醸造用ぶどう産地振興協議会」が設立され、ブドウ栽培に必要な苗木の購入費用などの支援を実施しており、今後も産地振興を図る上で必要な支援を継続するとともに、新規参入者の情報収集や情報共有も図ってまいりたい。

なお、醸造用ブドウの栽培に適した農地は、南向き、または、南東向きの斜面と条件が限られており、今後、産地として拡大していくためには、その条件に適した農地の確保が課題であると考えていますので、市としては、市内の農地情報を有している農業委員会との情報共有に努め、連携を密にすることで、新規参入者の受け入れにつなげてまいりたい。

また、市内では、醸造用ブドウの栽培に加えて、醸造所、いわゆる「ワイナリー」の建設を計画している事業者もいます。「ワイナリー」は、生産者が自ら生産・加工・販売を行う6次産業化の象徴的な施設であり、先ほど申し上げましたとおり、産業振興や観光振興、地方創生につながる可能性を秘めています。

しかしながら、その建設は、多額の費用を要するもので、市としては、国等の支援事業を活用しながら、何らかの支援策を検討してまいりたい。

今後も、生産者や関係機関からの意見やニーズの把握に努め、本市の醸造用ブドウが国内外から高く評価されるよう産地振興を図ってまいりたい。

問　参入希望者に対し、受け皿として土地の基盤や生活環境などの整備について、この2、3年の期間に支援策として具体的に考えていることはあるのか。

答（農林課長）2、3年の間でワイナリーを建設したいという計画を持っている事業者もおり、今までも様々な協議を進めてきています。

いろいろな省庁の支援事業から、どの事業が一番適しているのかを見極め、市のほうで何か支援できることがあるのか総合的に話を進め、事業者の希望に沿えるような事業を展開してまいりたい。

今年の収穫前ワイン用ブドウ畑（文月地区）